

幌延フォーラム 質疑応答の概要

●特別講演:「北緯 50 度サハリン国境紀行」～宗谷海峡を越えて樺太の今を訪ねる～ に関する質問

質問) (資料 8 頁)「オホーツク人」が暮らしたとされる地域について教えて頂きたい。
回答) 奥尻島にも若干痕跡が見られる。当時の北海道沿岸には相当数の「オホーツク人」が暮らしていたと思われる。今後、研究が進んで歴史学者等が解明していくのではないかと思う。

質問) (資料 9 頁)「礼文のビーナス」について、もう少し詳しく教えて頂きたい。

回答) 詳しくはわかっていないが、「巫女さん (シャーマン)」(の偶像) と考えられている。菱形の文様が細かく刻まれている箇所もあり、お祈りや祭事の道具として使われたのではないかと思われる。材料はセイウチの骨。セイウチの骨は、カムチャッカの更に奥の方でしか手に入らないもの。当時、かなり北と南で物流があったということが推測される。

●研究講演:「産業技術総合研究所がおこなう沿岸域深部地下水研究」に関する質問

質問) 平成 24 年までの幌延の沿岸域での研究成果報告書に、深度 800m ぐらいに 40 万年前と 200 万年前の古い地下水があると示されている。1 本のボーリング孔で深度が異なるのかわからないが、年代の差があるのはなぜか。

また、年代測定は、塩素とヘリウムが使われ、塩素が 40 万年前で、ヘリウムが 200 万年前と示されているが、これは手法の違いによるものではないか。
年代の差が大きいと感じる。

回答) 深度 1,200m のボーリング孔で、深度の異なる複数箇所ですべて採水している。その水質の調査から、深度 1,140m の水が 200 万年前で、深度 942m の水が 40 万年前という結果が出ている。また、コンピューターシミュレーションでの計算では、100 万年前から 130 万年前という結果が出ている。深度の違いと、測定手法の違いによる年代の差が生じる。

地層処分も二酸化炭素の地中貯留も、10 万年より前のところを探すこととなっており、その観点からは十分古いことがわかる。まだまだこれから、より正確な値を出すためにどういう手法が良いのかという研究を続けていきたい。

質問) 化石水の水は、動かないから塩分濃度が高くなるか。

回答) 塩分濃度が高い地下水は、ナトリウムや塩素が溶け出す地層の中を通過してきたもの。塩分濃度は、どういう経路で流れてきたか、どういう地質と接触していた時間が長いかということで決まる。

質問) 全国で同様の研究をやっていると思うが、幌延町浜里地区は何か特徴があるから研究しているのか。

回答) 全国で沿岸域の研究をしており、幌延町と対照的な地域としては、駿河湾で同じようにボーリング調査をしてその結果が出ている。幌延は、その研究成果が全国に通用するような成果が出てきているというのが理由の一つ。

また、幌延町は、原子力機構が地質調査をされており、元々多くのデータがあったため調査に入りやすかったという経緯がある。

質問) 調査結果を基に、地下水のモデルは完成したのか。

回答) オリンピック選手と同じで、やればやるほど新しい課題が出てくるので、終わりが無い。研究は、一生涯ライフワークとして続けて行きたいと思っている。

質問) 幌延（の深地層研究）は、期間は20年としてやっている研究。沿岸域の研究も（深地層研究と同じ）資源エネルギー庁の予算と思われる。先程説明されたような二酸化炭素の地中貯留や地下水の利用のための研究であれば、何も言わない。しかし、深地層研究と結びついているということからいうと、いつまでも続けていいとはならないのではないか。

回答) 三者協定のことは承知しており、重々心得て今後の活動に活かしていく。

研究は、場所はわからないが人生100年と言われているので、あと40年、50年続けたい。

以上